

## 令和5年度 授業改善推進プラン5年（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを書くことに苦手意識を感じている児童が多く見られるため改善策が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手とする児童には自分の考えを書く際にキーワードを提示して書きやすくする。又は、「書く」の前段階として「考えを話す」ことを促す指導を行う。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分で考えを書いて説明する」という問題に対応できない児童が多く見られるため支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のまとめを「穴埋めにする」「キーワードを提示して自分で文章を書かせる」ことで、日常的に書く経験ができるようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>①文章題の立式を苦手とする児童が多く見られるため支援が必要である。</li> <li>②前学年までの学習内容に躓きがあるために5年生の内容理解に課題がある、という児童について支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「わかっていること」「もとめるもの」に線をひく活動と、図・数直線・テープ図などで関係を整理する指導を、習熟度別クラスの実態に応じて取り入れる。</li> <li>②月2回程度、朝学習の際にタブレットを活用し、既習内容を中心に復習をする時間を設ける。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>①観察活動の際、記録・考察を記述するための表現力を高める必要がある。</li> <li>②経験や体験の個人差に加え、知識としての結論が分かっている児童もいるため、多様な予想や意見が出にくいことへの支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①課題→予想→検証→結果→考察→結論という授業の流れを確立する。その中でノートに自分の考えを書いたりまとめたりすることで思考力・表現力を伸ばしていく。</li> <li>②身近な例をあげて、自分の言葉で予想を書かせたり、自分たちの力で検証して結論に導いたりする機会を増やす。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>①歌唱：強弱や速さ等、表現の方法に支援が必要である。</li> <li>②器楽：楽譜の読み方、楽器の奏法に支援が必要である。</li> <li>③鑑賞：音楽的な言葉の使用、聴き取った事や自分の考えを相手に伝えるような確かな言葉（音楽用語を含む）で表すことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①録音するなどして自分たちで客観的に聴く。</li> <li>②楽譜の記号等の説明、ペーパーテスト等で定着、多くの楽器を体験する。</li> <li>③音楽的用語を意識して使わせる。発言しやすい雰囲気を教師側が作り、間違いを怖がらずに自由に発言することに慣れる。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>①アイデアを形にする段階で、技術が伴わず、制作時間が延びてしまったり途中で意欲が下がってしまったりする児童への支援が必要である。</li> <li>②意欲が維持できず、用具の扱いが荒くなる児童への支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①技法について説明する段階やアイデアを考えていく段階で、具体的な方法を示しながら、個別にも進度に合わせて指導していく。</li> <li>②用具の扱いについては、児童に考えさせながら繰り返し指導を重ねる。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>①用具の安全な取り扱いができるが、製作活動では時間がかかったり用具を使いこなせなかったりと生活経験の差が大きく、技能の個人差が大きい。十分身につかない児童への支援が必要である。</li> <li>②製作の際、完成までの製作時間の見通しがもてない児童への支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①実習を重視し、繰り返し作業する中で技能を習得できるようにする。また、児童の実態を把握し、個人差に応じてきめ細かい指導を行う。</li> <li>②制作活動では、作業の順序、作業時間、工夫するところなど、児童一人ひとりにお応じためあてをもたせ、完成までの見通しをもてるようワークシートを利用する。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に消極的な児童への支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童にあったスモールステップの提示 動きのポイントの提示。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>①プレゼンテーションの場で緊張してしまい、小声になったり早口になったりしてしまう児童が多く見られるため支援が必要である。</li> <li>②月の名前の定着度が低いため支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①個人・ペア・少人数グループ等の様々な形態で、発表前の授業において十分練習ができるよう時間を設ける。</li> <li>②単語とイラストをセットにした教室掲示物を作成し、日常的に目に触れる環境を整える。</li> </ul>
ICT端末の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科において、「navima」を活用して既習事項の復習を推進する。</li> <li>どの教科においても、作品や考えの共有を行う場面において「スクールタクト」を活用し、児童同士が互いのアイデアを把握しやすくする。</li> <li>主に社会科・理科において、「Google slide」を使用する課題を課す。</li> <li>まなびポケット「チャンネル」又は「class room」を活用した学級・学年への連絡を行う。</li> <li>体育科の学習において、自分の体の動きを客観的に把握する手段としてカメラ機能を活用する。</li> </ul>	